

# 2021年度第2四半期 決算説明資料

2021年11月5日  
株式会社 神戸製鋼所  
証券コード 5406

**KOBELCO**

1. 2021年度第2四半期 業績概要
2. 2021年度 業績見通し
3. 参考情報

# 1. 2021年度第2四半期 業績概要

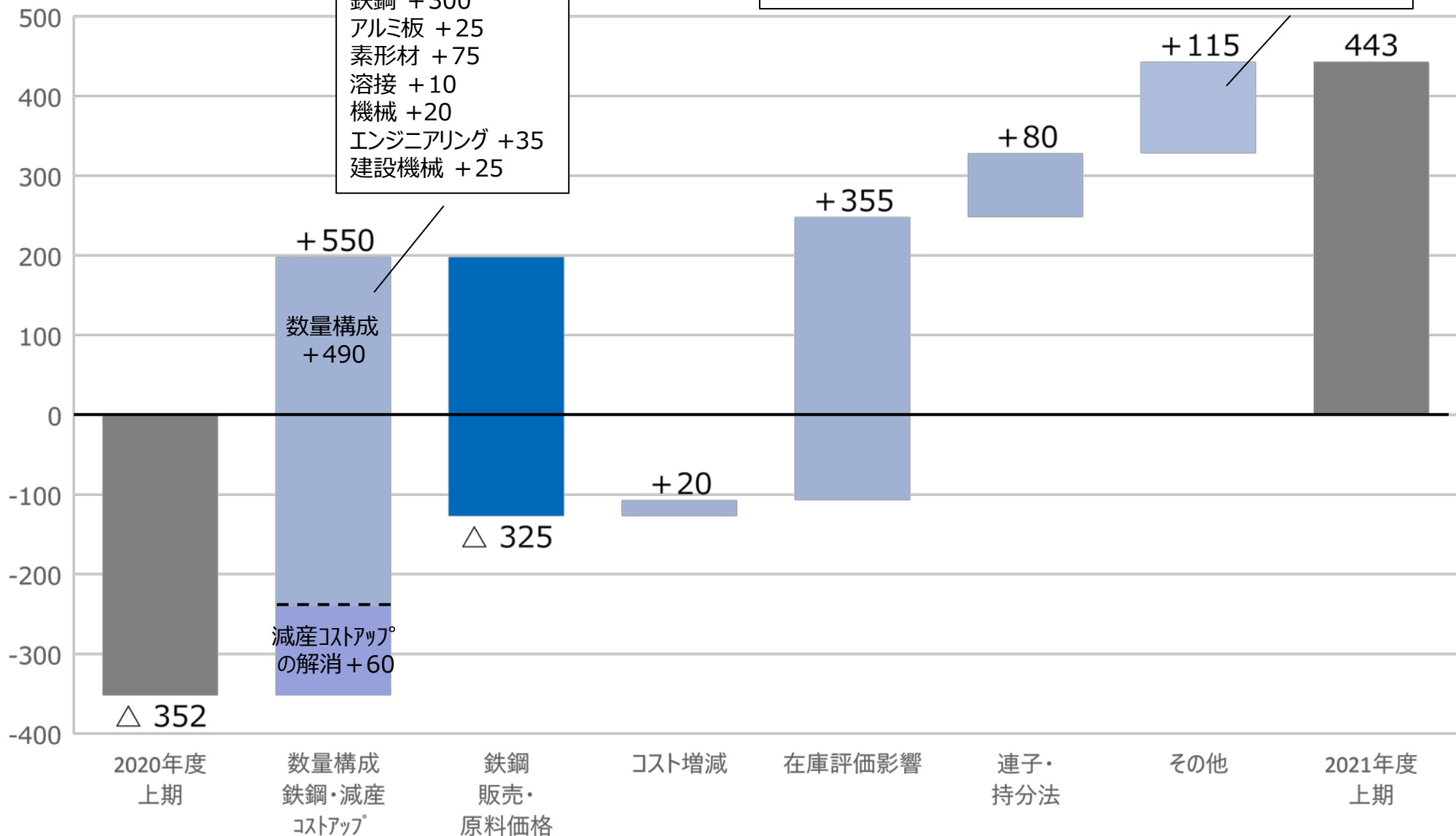
売上高・・・新型コロナウイルス感染症の拡大影響（以下、コロナ影響）を受けた前年同期に比べて、自動車向けを中心に需要が回復し、販売数量が増加したため増収  
 経常損益・・・鉄鋼において原料価格の上昇に伴うメタルスプレッドの悪化があるものの、在庫評価影響の改善や、販売数量の増加などにより改善

(単位：億円)

	2020年度 上期 ①	2021年度 上期 ②	増減 ②-①
売上高	7,764	9,721	+1,957
営業損益	△271	468	+739
経常損益	△352	443	+795
在庫評価影響を除く	△247	193	+440
特別損益	※ 136	—	△136
親会社株式に帰属する 四半期純損益	△152	345	+497

※ 固定資産売却益 98億円  
 段階取得に係る差益 32億円  
 投資有価証券売却益 31億円  
 減損損失 △25億円

(億円)



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

## 【売上高】

(単位：億円)

	2020年度 上期 ①	2021年度 上期 ②	増減 ②-①
鉄鋼アルミ	3,112	4,273	+1,161
素形材	1,053	1,532	+478
溶接	347	380	+33
機械	864	797	△66
エンジニアリング	560	556	△3
建設機械	1,618	1,940	+321
電力	370	375	+4
その他	108	114	+5
調整額	△270	△248	+21
合計	7,764	9,721	+1,957

## 【経常損益】

(単位：億円)

	2020年度 上期 ③	2021年度 上期 ④	増減 ④-③
鉄鋼アルミ	△418	148	+567
素形材	△109	52	+162
溶接	6	20	+14
機械	41	42	+0
エンジニアリング	△6	43	+50
建設機械	47	84	+36
電力	81	57	△24
その他	7	11	+3
調整額	△1	△17	△16
合計	△352	443	+795

(単位：億円)

		2020年度 上期 ①	2021年度 上期 ②	増減 ②-①
鉄鋼	売上高	2,452	3,465	+1,013
	経常損益	△404	124	+528
	在庫評価影響を除く	△319	△95	+223
アルミ板	売上高	659	807	+147
	経常損益	△14	24	+38
	在庫評価影響を除く	0	24	+23
合計	売上高	3,112	4,273	+1,161
	経常損益	△418	148	+567
	在庫評価影響を除く	△318	△71	+247

鉄鋼

**【売上高】2020年度上期：2,452億円 → 2021年度上期：3,465億円（前年同期比+1,013億円）**

**【経常損益】2020年度上期：△404億円 → 2021年度上期：124億円（前年同期比+528億円）**

■粗鋼生産：335万t（前年同期比+87万t）

■販売数量：268万t（前年同期比+64万t）

・コロナ影響からの需要回復により、自動車向けを中心に大幅に増加

■販売価格：95,500円/t（前年同期比+16,400円/t）

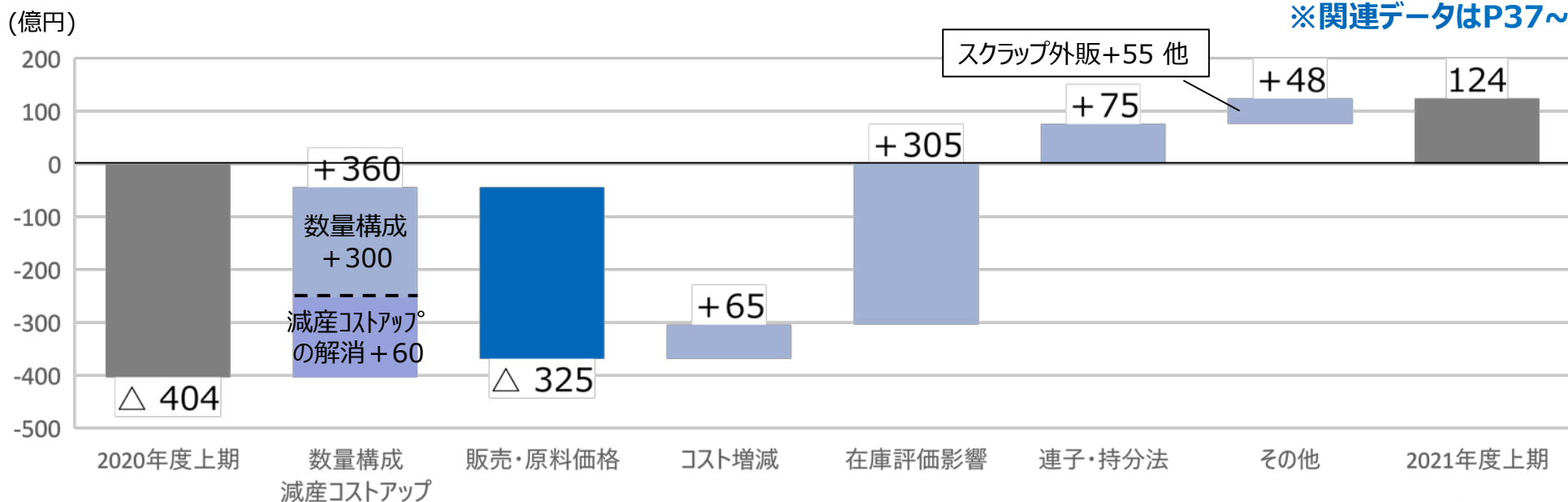
■損益変動要因

・販売数量の増加

・原料価格上昇分の販売価格への転嫁時期のずれ影響の拡大によるメタルスプレッドの悪化

・原料価格上昇に伴う在庫評価影響の改善

※関連データはP37~39



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む



**【売上高】2020年度上期：659億円 → 2021年度上期：807億円（前年同期比+147億円）**

**【経常損益】2020年度上期：△14億円 → 2021年度上期：24億円（前年同期比+38億円）**

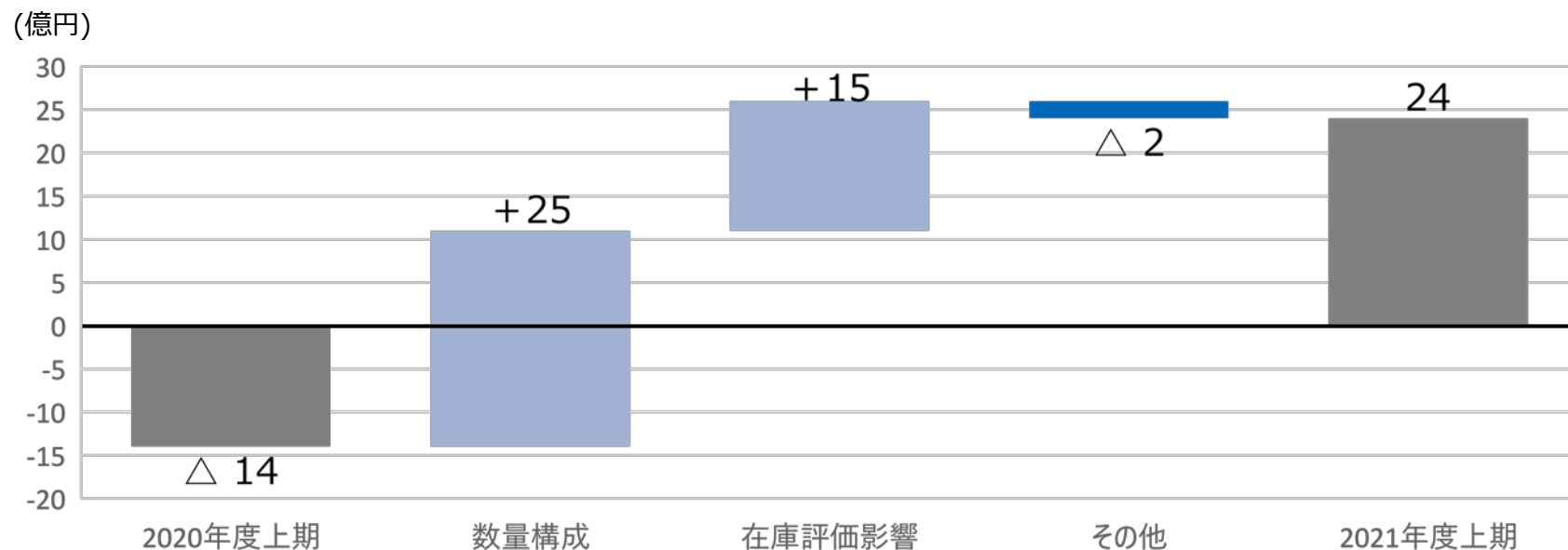
■ 販売数量：179千t（前年同期比+26千t）

- ・飲料用缶材向け：拡販による増加
- ・IT・半導体向け：半導体製造装置向けを中心に、堅調に推移
- ・自動車向け：需要回復による増加

■ 損益変動要因

- ・販売数量の増加
- ・在庫評価影響による損益が前年同期に比べて改善

※関連データはP38~39



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

(単位：億円)

	2020年度 上期 ①	2021年度 上期 ②	増減 ②-①
売上高	1,053	1,532	+478
経常損益	△109	52	+162
在庫評価影響を除く	△104	22	+127

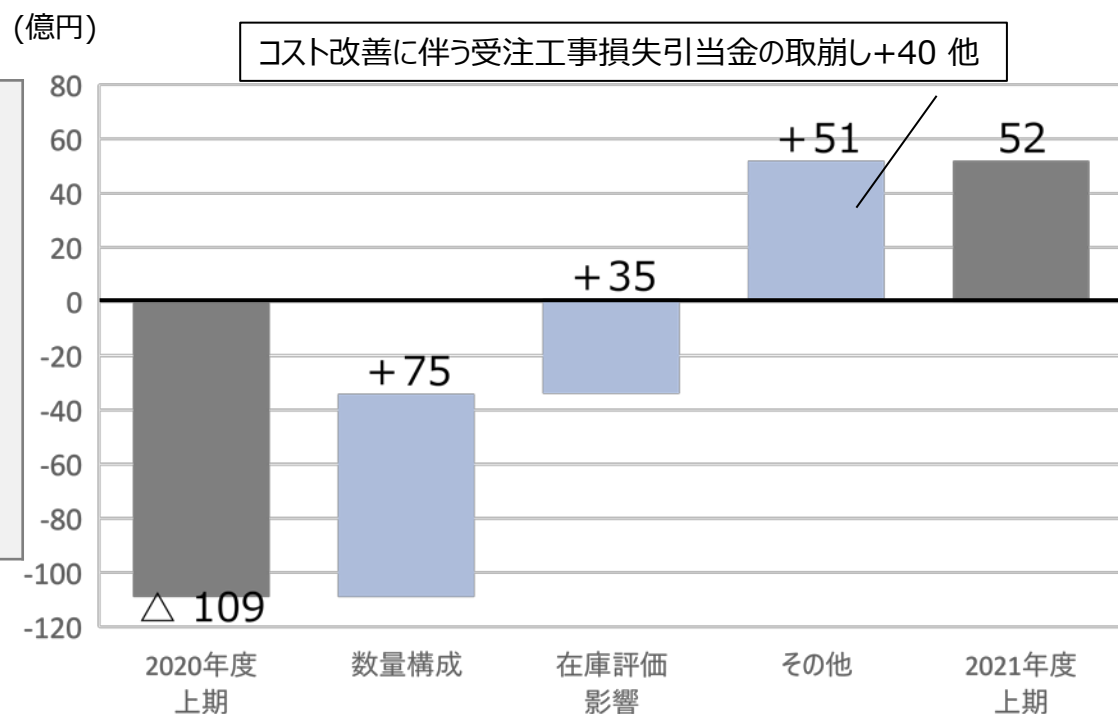
### ■ 販売数量

- ・自動車向けを中心に増加  
(サスペンション、アルミ押出、銅板、鉄粉など)

### ■ 損益変動要因

- ・販売数量の増加
- ・銅市況の上昇に伴う在庫評価影響の改善
- ・コスト改善に伴う受注工事損失引当金の取崩し

※関連データはP38~39



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

(単位：億円)

	2020年度 上期 ①	2021年度 上期 ②	増減 ②-①
売上高	347	380	+ 33
経常損益	6	20	+ 14

■ 販売数量

国内：自動車向けなどで増加

海外：東南アジアにおける自動車向け、建設機械向けなどで増加

■ 損益変動要因

・販売数量の増加

※関連データはP38

(単位：億円)

	2020年度 上期 ①	2021年度 上期 ②	増減 ②-①
売上高	864	797	△66
経常損益	41	42	+0
受注高	※ 599	895	+296
	2020年度末 ①	2021年度上期末 ②	増減 ②-①
受注残高	※ 1,180	1,257	+77

※従来は当社と主要な連結子会社の受注高を集計。

第2四半期より当社と全ての連結子会社の受注高を集計する方法に変更したことに伴い、前期の受注高および受注残高も再集計。

■ 受注高

- ・設備投資の回復により産業機械・圧縮機ともに増加

■ 損益変動要因

- ・案件構成差

(単位：億円)

	2020年度 上期 ①	2021年度 上期 ②	増減 ②-①
売上高	560	556	△3
経常損益	△6	43	+50
受注高	758	735	△23
	2020年度末 ①	2021年度上期末 ②	増減 ②-①
受注残高	2,821	3,512	+690

**■ 受注高**

- ・水処理関連事業で大型案件の受注があった前年同期に比べて減少

**■ 損益変動要因**

- ・廃棄物処理関連事業を中心とした案件構成差

(単位：億円)

	2020年度 上期 ①	2021年度 上期 ②	増減 ②-①
売上高	1,618	1,940	+321
経常損益	47	84	+36

## ■ 販売台数

### [油圧ショベル]

コロナ影響からの需要回復、インフラ投資の拡大により、東南アジア、欧州を中心に増加

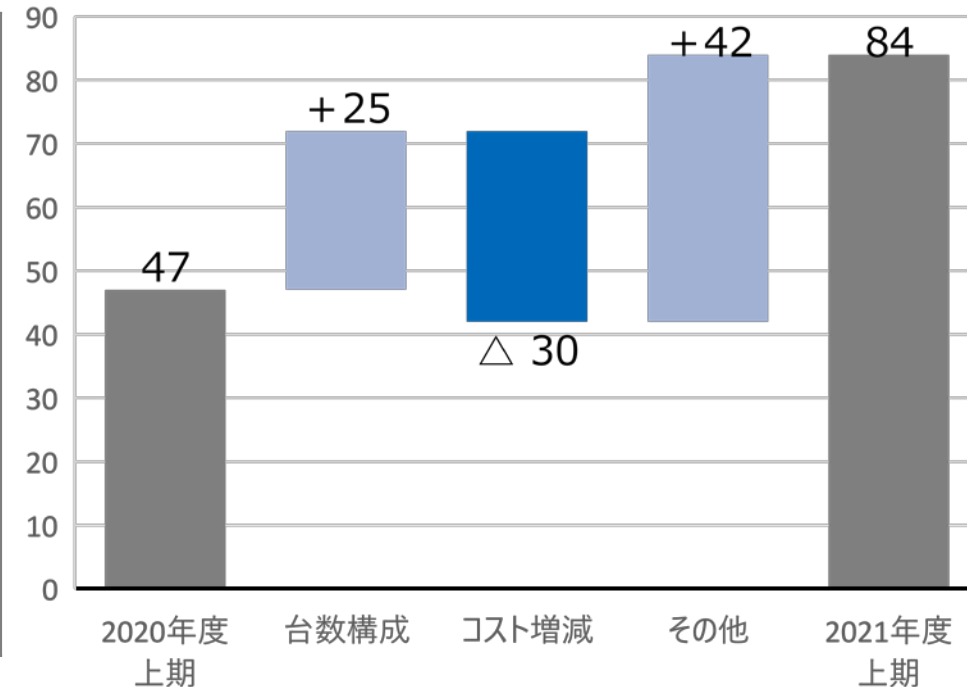
### [クローラクレーン]

エンジン認証問題の影響を受けた北米を中心に減少

## ■ 損益変動要因

- ・販売台数の増加
- ・活動水準の回復に伴う開発費・経費等のコスト増加
- ・在庫の減少に伴うグループ間取引における利益の実現

(億円)



(単位：億円)

	2020年度 上期 ①	2021年度 上期 ②	増減 ②-①
売上高	370	375	+4
経常損益	81	57	△24

- 販売電力量 ……減少
  - ・真岡発電所の稼働日数が法定点検の実施により減少
- 販売単価 ……上昇
  - ・燃料価格の値上がりによる影響
- 損益変動要因
  - ・真岡発電所の販売電力量の減少

## 2. 2021年度 業績見通し

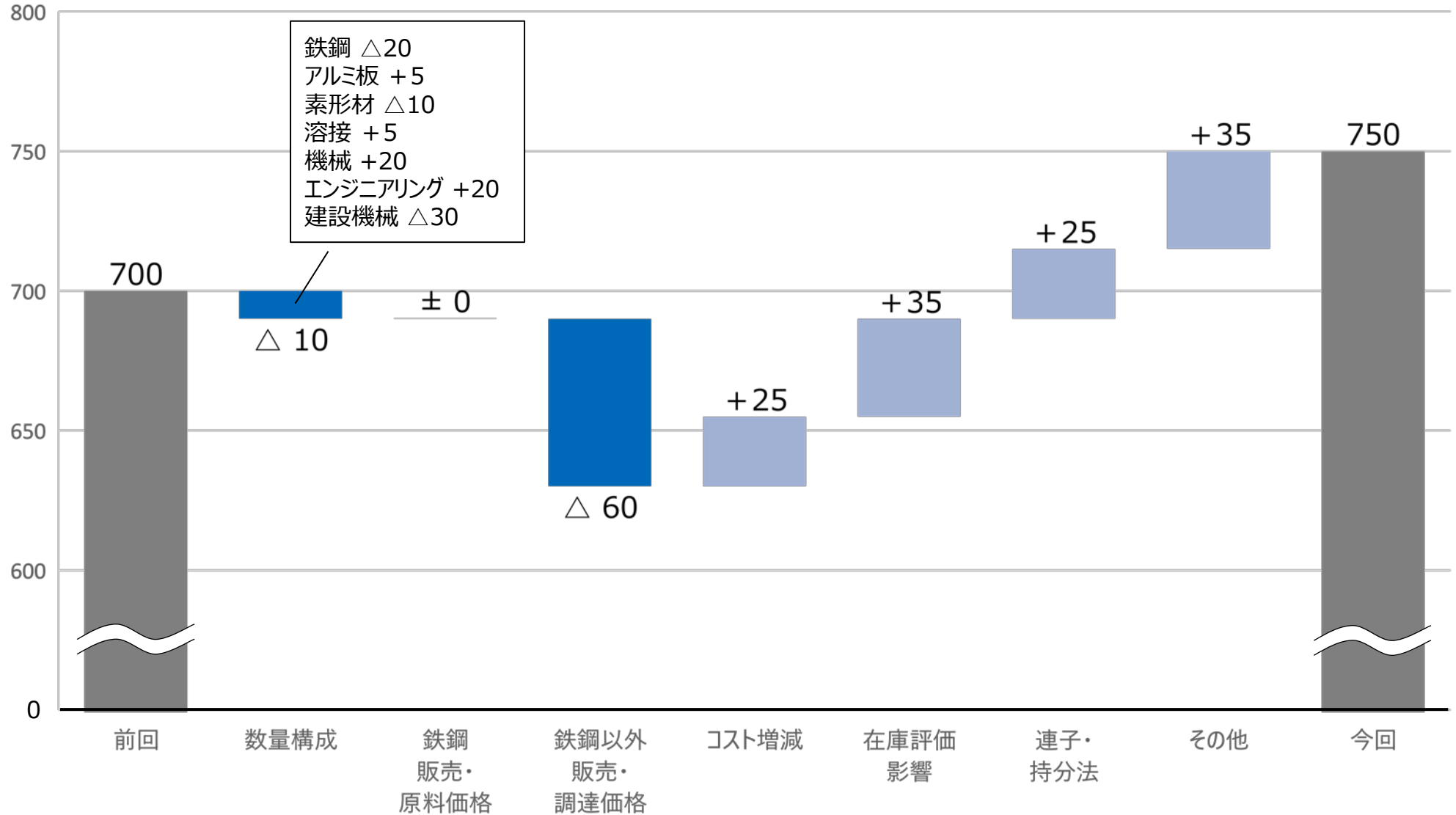


- 自動車生産減少による素材系での数量減、建設機械において中国の総需減・競争激化に伴う販売台数減を想定
- 機械・エンジニアリングの受注環境は回復基調
- 石炭価格高騰の影響から主原料コストは前回想定比上昇する一方、販売価格への転嫁の進展からメタルスプレッドは前回並みを見込む
- 副原料、諸資材価格の上昇による調達コストアップを想定
- 原料価格上昇に伴い、在庫評価影響は改善

(単位：億円)

	2020年度 実績 ①	2021年度見通し (前回)			2021年度見通し (今回)			増減	
		上期	下期	②	上期	下期	③	③-①	③-②
売上高	17,055	9,900	10,400	20,300	9,721	11,179	20,900	+ 3,845	+ 600
営業損益	303	350	450	800	468	381	850	+ 547	+ 50
経常損益	161	320	380	700	443	307	750	+ 589	+ 50
在庫評価影響を除く	201	85	260	345	193	167	360	+ 159	+ 15
特別損益	25	-	-	-	-	-	-	△25	-
親会社株式に帰属する 当期純損益	232	200	200	400	345	155	500	+ 268	+ 100

(億円)



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

( ) は需要変動の影響を受けるユニット

自動車	<p>(鉄鋼、アルミ板、サスペンション、アルミ押出、銅板、鉄粉、溶接)                  海外でのコロナ影響による部品調達不足影響を受けて、前回見通しを下回ると想定                  《日系自動車メーカー生産台数(海外含む)の想定(前年同期比)》</p> <table border="1" data-bbox="372 425 1365 596"> <thead> <tr> <th></th> <th>1Q</th> <th>2Q</th> <th>3Q</th> <th>4Q</th> <th>通期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>前回</td> <td>+60%</td> <td>+15%</td> <td>—</td> <td>+5%</td> <td>+15%</td> </tr> <tr> <td>今回</td> <td>+60%</td> <td>△5%</td> <td>△10%</td> <td>+15%</td> <td>+10%</td> </tr> </tbody> </table>		1Q	2Q	3Q	4Q	通期	前回	+60%	+15%	—	+5%	+15%	今回	+60%	△5%	△10%	+15%	+10%
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期														
前回	+60%	+15%	—	+5%	+15%														
今回	+60%	△5%	△10%	+15%	+10%														
航空機	<p>(アルミ鋳鍛、チタン)                  旅客需要の減少により、今後数年間は市場は低迷すると想定</p>																		
造船	<p>(鉄鋼、鋳鍛鋼、溶接)                  国内の新造船需要は回復基調と想定</p>																		
飲料缶	<p>(アルミ板)                  2020年度に引き続き、需要は堅調に推移すると想定</p>																		
IT・半導体	<p>(アルミ板、銅板)                  旺盛な需要が継続すると想定</p>																		
建築土木	<p>(鉄鋼、溶接)                  建築分野の需要は回復基調と想定</p>																		

## 【売上高】

(単位：億円)

	2020年度 実績 ①	2021年度見通し (前回)			2021年度見通し (今回)			増減	
		上期	下期	②	上期	下期	③	③-①	③-②
鉄鋼アルミ	6,963	4,260	4,540	8,800	4,273	4,977	9,250	+2,287	+450
素形材	2,381	1,570	1,630	3,200	1,532	1,768	3,300	+919	+100
溶接	700	370	380	750	380	380	760	+60	+10
機械	1,753	860	840	1,700	797	913	1,710	△43	+10
エンジニアリング	1,361	600	820	1,420	556	884	1,440	+79	+20
建設機械	3,331	2,040	1,860	3,900	1,940	1,960	3,900	+569	-
電力	804	340	500	840	375	565	940	+136	+100
その他	278	120	160	280	114	166	280	+2	-
調整額	△517	△260	△330	△590	△248	△434	△680	△163	△90
合計	17,055	9,900	10,400	20,300	9,721	11,179	20,900	+3,845	+600

## 【経常損益】

(単位：億円)

	2020年度 実績 ①	2021年度見通し (前回)			2021年度見通し (今回)			増減	
		上期	下期	②	上期	下期	③	③-①	③-②
鉄鋼アルミ	△226	140	260	400	148	252	400	+626	-
素形材	△121	25	5	30	52	△22	30	+151	-
溶接	17	5	5	10	20	5	25	+8	+15
機械	114	25	25	50	42	38	80	△34	+30
エンジニアリング	44	25	30	55	43	37	80	+36	+25
建設機械	127	80	0	80	84	△39	45	△82	△35
電力	206	40	60	100	57	53	110	△96	+10
その他	42	0	30	30	11	24	35	△7	+5
調整額	△43	△20	△35	△55	△17	△41	△55	△12	-
合計	161	320	380	700	443	307	750	+589	+50

(単位：億円)

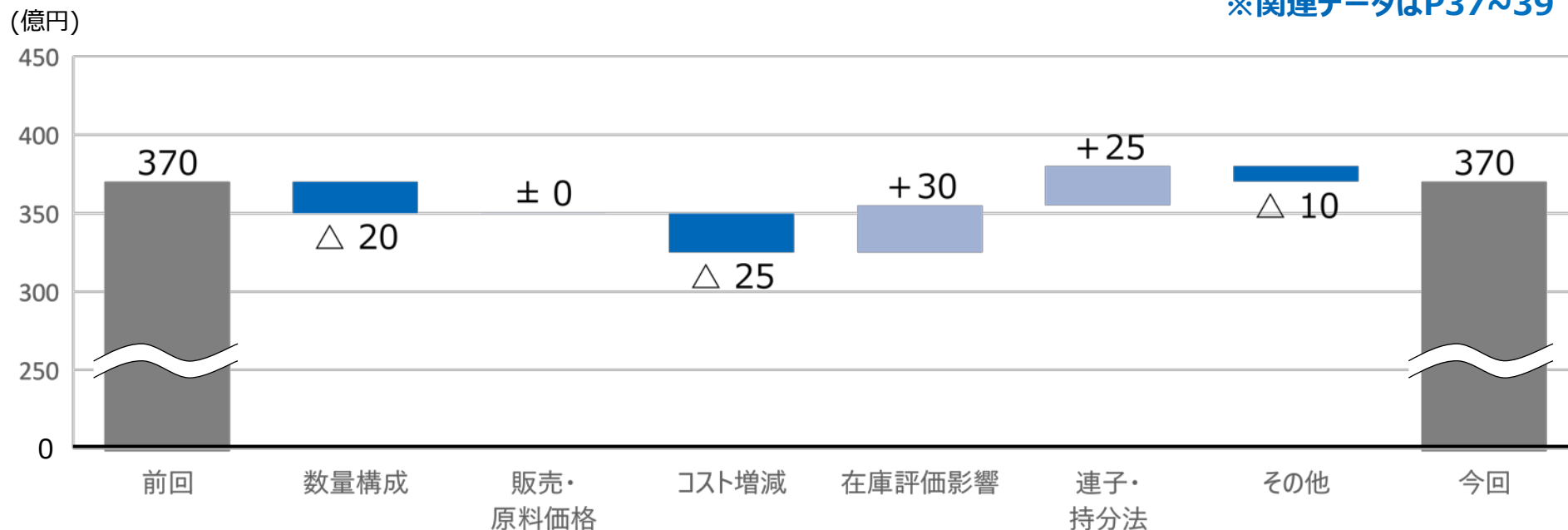
		2020年度 実績	2021年度見通し (前回)			2021年度見通し (今回)			増減	
			①	上期	下期	②	上期	下期	③	③-①
鉄鋼	売上高	5,638	3,480	3,770	7,250	3,465	4,135	7,600	+1,962	+350
	経常損益	△233	120	250	370	124	246	370	+603	-
	在庫評価影響を除く	△208	△80	140	60	△95	125	30	+238	△30
アルミ板	売上高	1,324	780	770	1,550	807	843	1,650	+326	+100
	経常損益	6	20	10	30	24	6	30	+24	-
	在庫評価影響を除く	31	10	0	10	24	△19	5	△26	△5
合計	売上高	6,963	4,260	4,540	8,800	4,273	4,977	9,250	+2,287	+450
	経常損益	△226	140	260	400	148	252	400	+626	-
	在庫評価影響を除く	△176	△70	140	70	△71	106	35	+211	△35

鉄鋼

## 前回：370億円→今回：370億円（前回比±0億円）

- 粗鋼生産：670万t程度（前回並み）
- 販売数量：550万t程度（前回並み）
  - ・自動車向けが減少する一方、他製造業、建築向けが増加
- 損益変動要因
  - ・販売構成の変化
  - ・原料価格は前回比上昇するものの、販売価格交渉の進展によりメタルスプレッドは前回並み
  - ・操業影響に伴う一時的なコストアップ
  - ・原料価格上昇に伴う在庫評価影響の改善

※関連データはP37~39



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

（単位：億円）

	2020年度 実績 ①	2021年度見通し (前回)			2021年度見通し (今回)			増減	
		上期	下期	②	上期	下期	③	③-①	③-②
売上高	1,324	780	770	1,550	807	843	1,650	+326	+100
経常損益	6	20	10	30	24	6	30	+24	-
在庫評価影響を除く	31	10	0	10	24	△19	5	△26	△5

## 前回：30億円→今回：30億円（前回比±0億円）

- 販売数量：355千t程度（前回比+5千t）  
IT・半導体向けが堅調に推移
- 損益変動要因
  - ・副原料価格上昇に伴う調達コストの増加
  - ・原油価格上昇に伴うエネルギーコストの増加
  - ・アルミ地金市況の上昇に伴う在庫評価影響の改善

※関連データはP38~39



(単位：億円)

	2020年度 実績 ①	2021年度見通し (前回)			2021年度見通し (今回)			増減	
		上期	下期	②	上期	下期	③	③-①	③-②
売上高	2,381	1,570	1,630	3,200	1,532	1,768	3,300	+ 919	+ 100
経常損益	△121	25	5	30	52	△22	30	+ 151	-
在庫評価影響を除く	△131	0	5	5	22	△17	5	+ 136	-

## 前回：30億円→今回：30億円（前回比±0億円）

- 販売数量
  - サスペンション、アルミ押出が自動車生産減の影響により減少
- 損益変動要因
  - ・販売数量の減少
  - ・原料価格上昇に伴う調達コストの増加
  - ・原油価格上昇に伴うエネルギーコストの増加
  - ・コスト改善に伴う受注工事損失引当金の取崩し

※関連データはP38~39

(単位：億円)

	2020年度 実績 ①	2021年度見通し (前回)			2021年度見通し (今回)			増減	
		上期	下期	②	上期	下期	③	③-①	③-②
売上高	700	370	380	750	380	380	760	+60	+10
経常損益	17	5	5	10	20	5	25	+8	+15

**前回：10億円→今回：25億円（前回比+15億円）**

- 販売数量・・・前回並み
- 損益変動要因
  - ・固定費を中心としたコスト削減
  - ・鋼材などの調達コストの増加

※関連データはP38

(単位：億円)

	2020年度 実績 ①	2021年度見通し (前回)			2021年度見通し (今回)			増減	
		上期	下期	②	上期	下期	③	③-①	③-②
売上高	1,753	860	840	1,700	797	913	1,710	△43	+10
経常損益	114	25	25	50	42	38	80	△34	+30
受注高	※ 1,331			※ 1,900 程度	895	1,100 程度	2,000 程度	+650 程度	+100 程度

※従来は当社と主要な連結子会社の受注高を集計。

第2四半期より当社と全ての連結子会社の受注高を集計する方法に変更したことに伴い、前期・前回見通しの受注高も再集計。

## 前回：50億円→今回：80億円（前回比+30億円）

### ■ 受注高

- ・設備投資の回復に伴い、産業機械等の受注増加

### ■ 損益変動要因

- ・サービス案件の増加
- ・非汎用圧縮機等における案件の採算改善

(単位：億円)

	2020年度 実績 ①	2021年度見通し (前回)			2021年度見通し (今回)			増減	
		上期	下期	②	上期	下期	③	③-①	③-②
売上高	1,361	600	820	1,420	556	884	1,440	+79	+20
経常損益	44	25	30	55	43	37	80	+36	+25
受注高	1,134			1,800 程度	735	1,150 程度	1,900 程度	+750 程度	+100 程度

**前回：55億円→今回：80億円（前回比+25億円）**

■ 受注高

- ・還元鉄関連事業の受注などによる増加

（詳細は、[P34 KOBELCOグループ中期経営計画 関連トピックス（1）](#) ご参照）

■ 損益変動要因

- ・還元鉄関連事業の新規受注
- ・既受注案件の採算改善

(単位：億円)

	2020年度 実績 ①	2021年度見通し (前回)			2021年度見通し (今回)			増減	
		上期	下期	②	上期	下期	③	③-①	③-②
売上高	3,331	2,040	1,860	3,900	1,940	1,960	3,900	+ 569	-
経常損益	127	80	0	80	84	△39	45	△82	△35

**前回：80億円→今回：45億円（前回比△35億円）**

■ 販売台数

[油圧ショベル]

中国：インフラ投資の減退に伴う需要減の中、競争激化により減少

その他の地域：半導体不足に伴う部品供給問題などにより減少

[クローラクレーン]

東南アジアを中心に減少

■ 損益変動要因

・販売台数の減少

・鋼材などの調達コスト、輸送費の増加

(単位：億円)

	2020年度 実績 ①	2021年度見通し (前回)			2021年度見通し (今回)			増減	
		上期	下期	②	上期	下期	③	③-①	③-②
売上高	804	340	500	840	375	565	940	+136	+100
経常損益	206	40	60	100	57	53	110	△96	+10

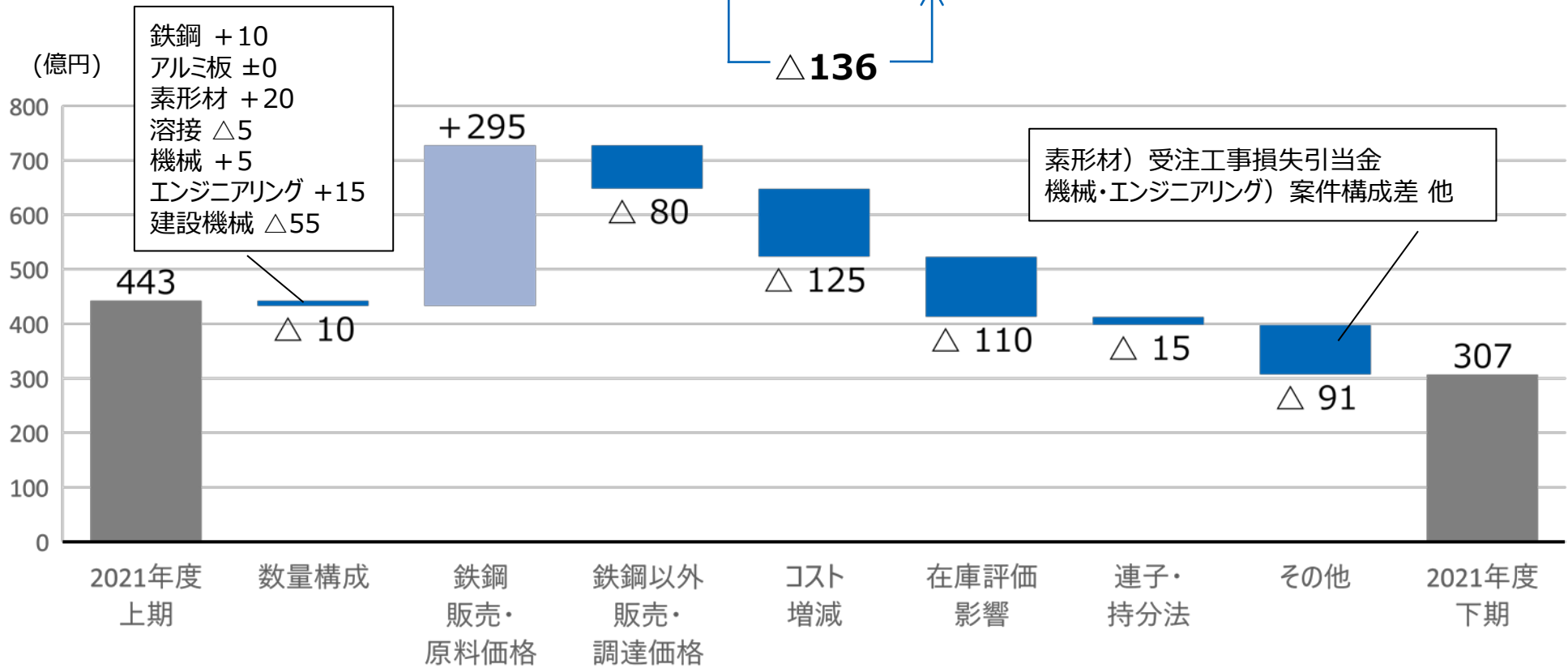
**前回：100億円→今回：110億円（前回比+10億円）**

- 販売電力量 … 前回並み
- 販売単価 … 上昇
  - ・燃料価格の値上がりによる影響
- 損益変動要因
  - ・コスト削減

## 【経常損益】

（単位：億円）

	2021年度見通し		
	上期	下期	通期
全社	443	307	750



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

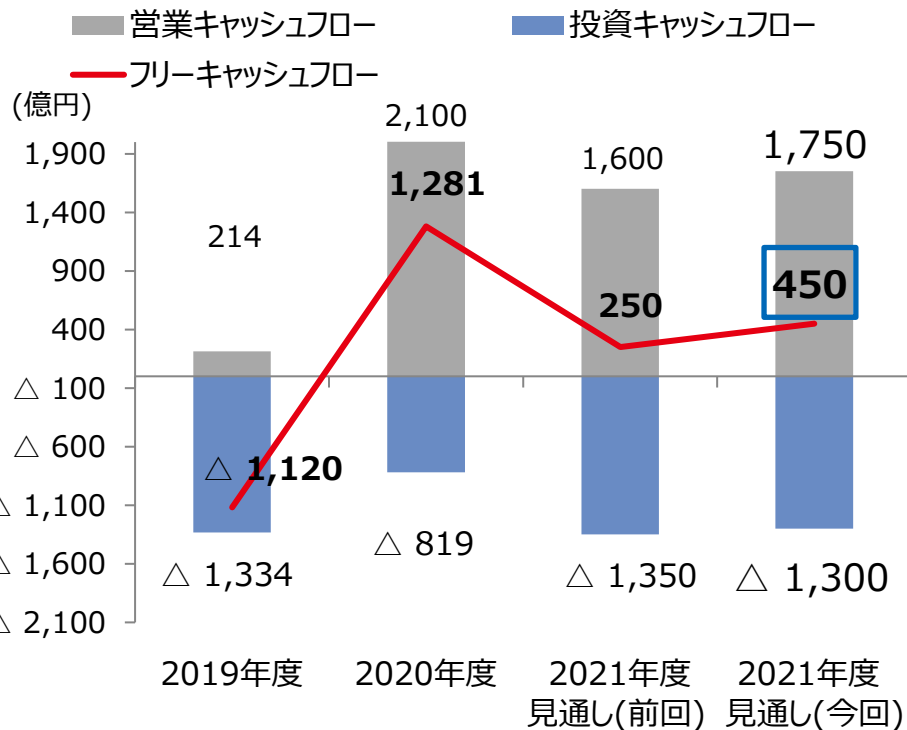
- 配当につきましては、継続的かつ安定的に実施していくことを基本としつつ、財政状態、業績の動向、先行きの資金需要などを総合的に考慮して決定することとしております。（配当性向の目安は、親会社株主に帰属する当期純利益（連結）の15%～25%としております）
- 当期の中間配当につきましては、8月5日に公表の通り、1株につき10円とすることを決議いたしました。
- 期末配当につきましては、予想額を未定としております。

	2020年度			2021年度		
	中間	期末		中間	期末	
配当金額（円/株）	—	10	10	10	未定	未定
配当性向			15.6%			

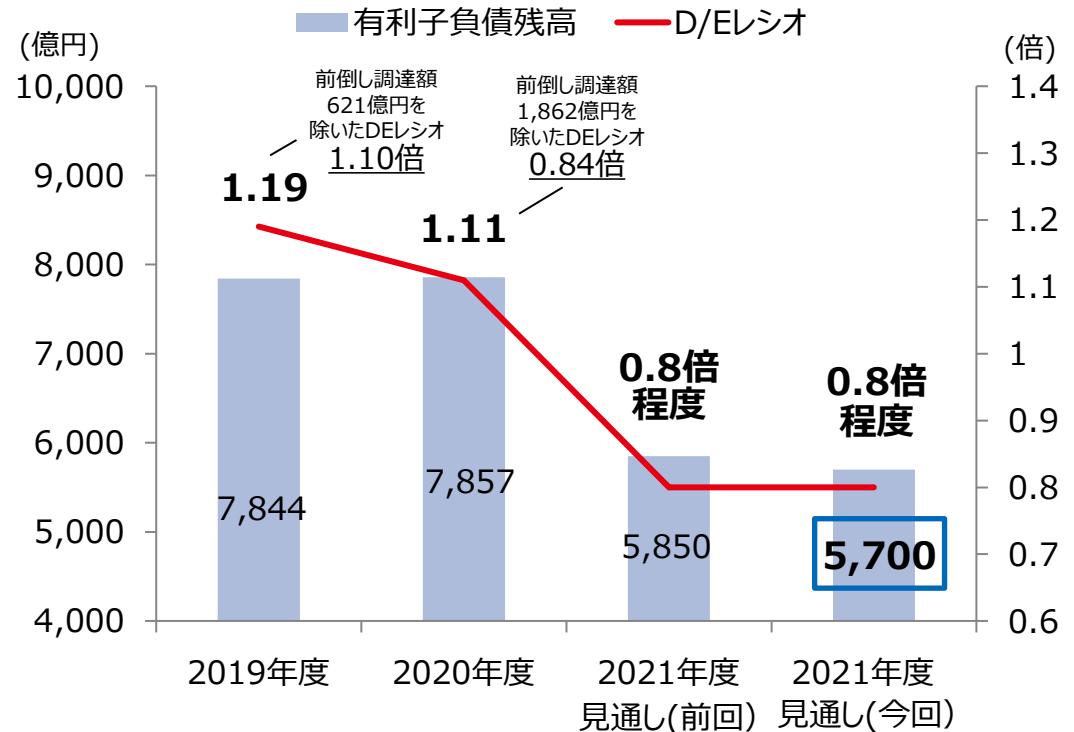


- 新設した「事業ポートフォリオ管理委員会」にて、キャッシュフロー計画のモニタリング強化を実施中。
- フリーキャッシュフローは、業績および運転資金の改善、設備投資の厳選により、前回見通し比増加の見込み。
- D/Eレシオは、財務基盤の強化に引き続き取り組み、0.8倍程度を計画。

## 《フリーキャッシュフロー》



## 《有利子負債残高・D/Eレシオ》



※フリーキャッシュフローおよびD/Eレシオに、プロジェクトファイナンスは含まない

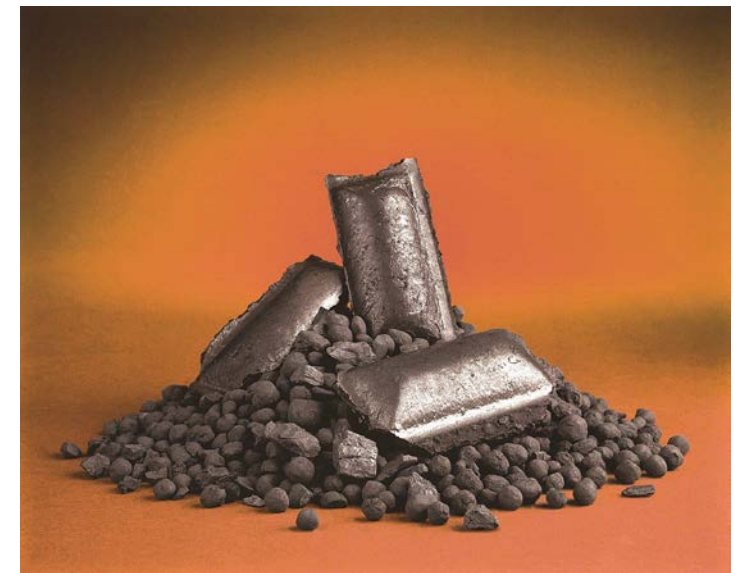
- 本年5月公表の中期経営計画の最重要課題「①安定収益基盤の確立、②カーボンニュートラルへの挑戦」については、それぞれのロードマップを具体化しながら着実に推進中。

## TOPICS (1)

# ロシアにおける MIDREX® HBIプラントの新規受注について

～本年3月に続き、ロシア向けにHBI生産能力：世界最大となる年産208万トン～

- MIDREX®プロセスへのお客様からの引合いは、ロシア、欧州、北米、中東、北アフリカ地域を中心に急速に拡大中
- 米国の当社100%子会社であるMidrex Technologies, Inc. (以下ミドレックス社) と、Primetals Technologies, Limited (プライメタルズ社) のコンソーシアムは、このほど、ロシアのMetalloinvest MC LLC (以下メタロインベスト社) より Lebedinsky GOK 向けにMIDREX®プロセスのHBI (※) プラントを受注。
- 将来的に、使用する還元材を水素へ完全に移行することも視野に入れた設計となっている。工場稼働は2025年。
- ミドレックス社は今年の3月にも同メタロインベスト社の傘下である Mikhailovsky HBI LLC (ミハイロフスキー社) より今回と同規模のMIDREX® HBIプラントを受注。



2021年10月22日リリース「[ロシアにおけるMIDREX® HBIプラントの新規受注について](#)」

※MIDREX®プロセスの詳細は、2021年9月28日開催の「ESG説明会」の「[ESG説明会資料](#)」をご参照方

## TOPICS (2)

## 株式会社神鋼環境ソリューションの完全子会社化

～グループ総合力の発揮と当社グループならではの価値創造～

- 加速するCO2削減の流れを機会と捉え環境貢献メニューを活かした受注拡大とグループ内連携を促進
- 株式会社神鋼環境ソリューションの完全子会社化（2021年11月1日発効）により以下シナジー効果を拡大
  - ① 神鋼環境ソリューションを含む KOBELCO グループでの新規事業創出の加速
  - ② KOBELCO グループ全体でのカーボンニュートラル達成に向けた取り組み加速
  - ③ KOBELCO グループ総合力の活用による神鋼環境ソリューション事業の拡大
  - ④ 経営効率の向上及び上場維持コストの削減
  - ⑤ 中長期的な視点に基づく事業運営及び意思決定の迅速化

2021年8月5日リリース「[株式会社神戸製鋼所による株式会社神鋼環境ソリューションの簡易株式交換による完全子会社化に関するお知らせ](#)」

## TOPICS (3)

## ステークホルダーの皆様との対話と情報開示の拡充

～個別の事業戦略に関する説明会やESG説明会を開催～

- 株主・投資家をはじめとするステークホルダーの皆様は、特に外部の視点を経営に反映させるうえで、当社グループにとってかけがえのない存在であり、今後とも貴重なご意見をいただく場としての対話の機会と情報開示を拡充してまいります。

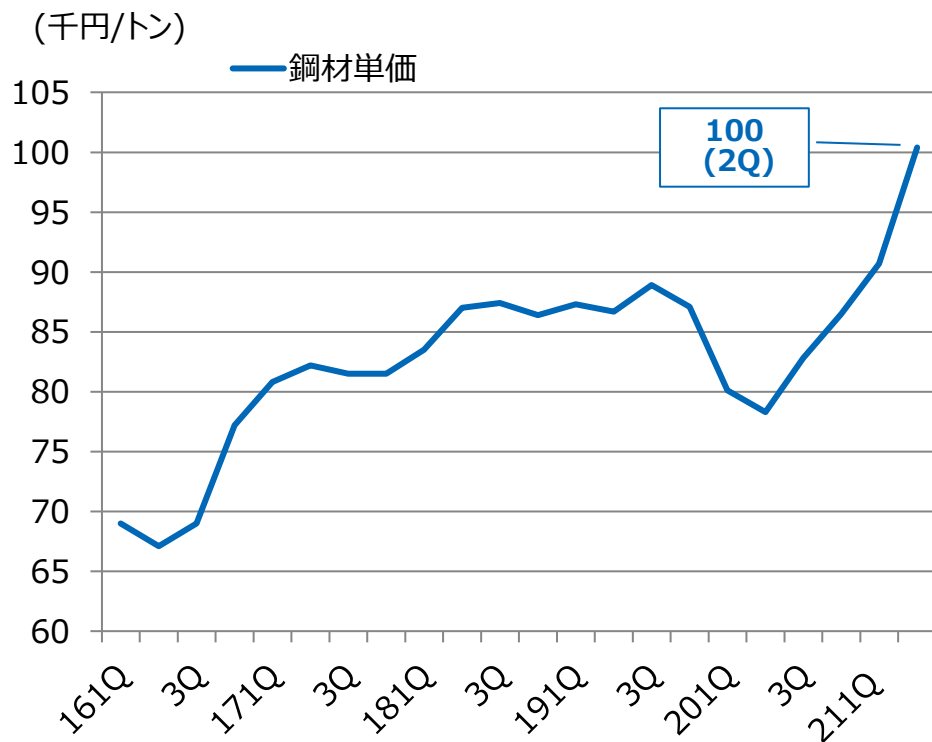
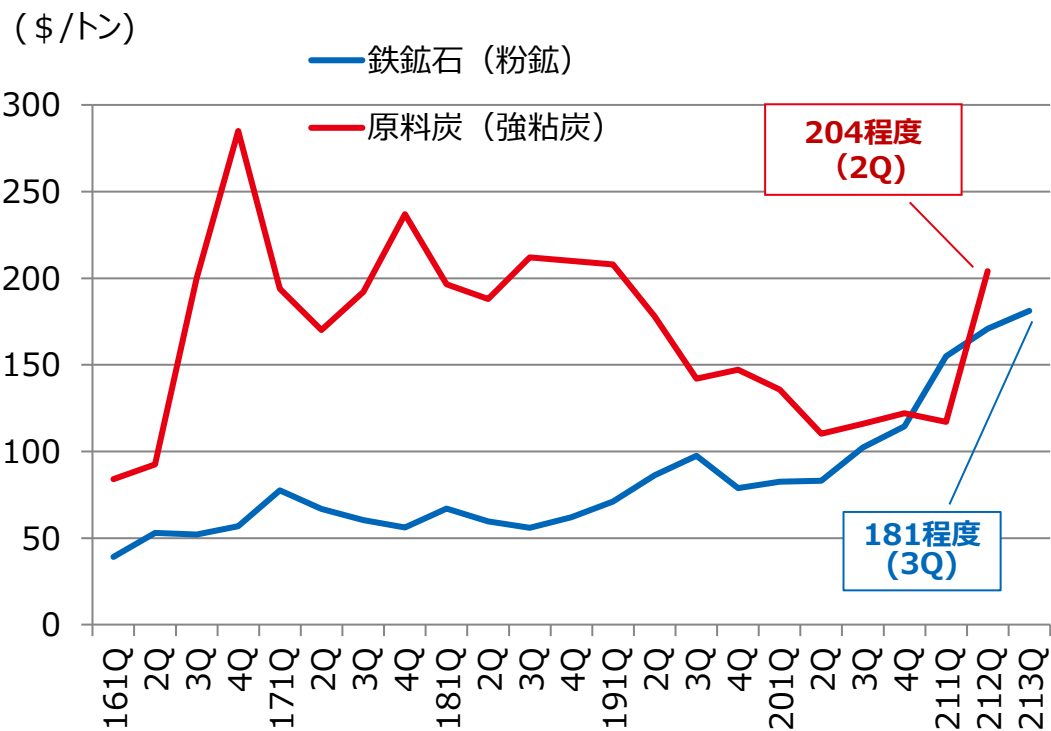
2021年2月16日開催の説明会 「[KOBELCOグループの製鉄工程におけるCO<sub>2</sub>低減ソリューション](#)」

2021年3月11日開催の説明会 「[\(株\)神戸製鋼所と三浦工業\(株\)による汎用圧縮機事業における資本業務提携](#)」

2021年9月28日開催 「[ESG説明会](#)」

## 3. 参考情報

	2020年度実績			2021年度	
	上期	下期	年度	上期	
全 国 粗 鋼 (万t)	3,709	4,570	8,278	4,842	4-9月計速報
全 国 在 庫 水 準 (万t)	512	507	507	583	9月末速報
薄 板 3 品 在 庫 水 準 (万t)	367	351	351	432	9月末速報
国内自動車生産台数 (万台)	335	463	798	317	4-8月計



	2020年度実績			2021年度 見通し (前回)	2021年度見通し (今回)	
	上期	下期	通期	通期	上期	通期
※高砂製作所の電炉の生産数量を含む。						
粗鋼生産量 ※ (万t)	248	333	581	670程度	335	670程度
鋼材販売量 (万t)	204	269	473	550程度	268	550程度
(うち、国内)	(143)	(201)	(344)		(203)	
(うち、輸出)	(61)	(68)	(129)		(66)	
鋼材販売単価 (千円/t)	79.1	84.7	82.3		95.5	
鋼材輸出比率 (金額ベース)	25.0%	23.1%	23.9%		24.9%	
アルミ板販売数量 (千t)	152	153	305	350程度	179	355程度
(うち、国内)	(121)	(114)	(236)		(134)	
(うち、輸出)	(30)	(38)	(69)		(45)	
アルミ押出販売数量 (千t)	12	18	31	38程度	19	39程度
(うち、国内)	(12)	(17)	(29)		(18)	
(うち、輸出)	(0)	(1)	(1)		(1)	
銅板販売数量 (千t)	19	30	48	61程度	29	60程度
銅管販売数量 (千t)	32	35	67	77程度	40	76程度
溶接材料販売数量 (千t)	120	121	242	260程度	133	260程度
(うち、国内)	(49)	(51)	(100)		(53)	
(うち、輸出)	(71)	(70)	(142)		(80)	

(単位：億円)

鉄鋼	2020年度実績				2021年度見通し				
	1Q	2Q	上期	通期	1Q実績	2Q実績	上期	下期	通期
鉄鉱石	5	0	5	35	45	15	60	△90	△30
石炭	△5	△10	△15	△10	△5	40	35	30	65
<b>キャリアオーバー</b>	<b>0</b>	<b>△10</b>	<b>△10</b>	<b>25</b>	<b>40</b>	<b>55</b>	<b>95</b>	<b>△60</b>	<b>35</b>
総平均	30	△25	5	△55	140	80	220	120	340
低価格法	△105	15	△90	30	0	0	0	0	0
<b>在庫評価影響</b>	<b>△75</b>	<b>△10</b>	<b>△85</b>	<b>△25</b>	<b>140</b>	<b>80</b>	<b>220</b>	<b>120</b>	<b>340</b>

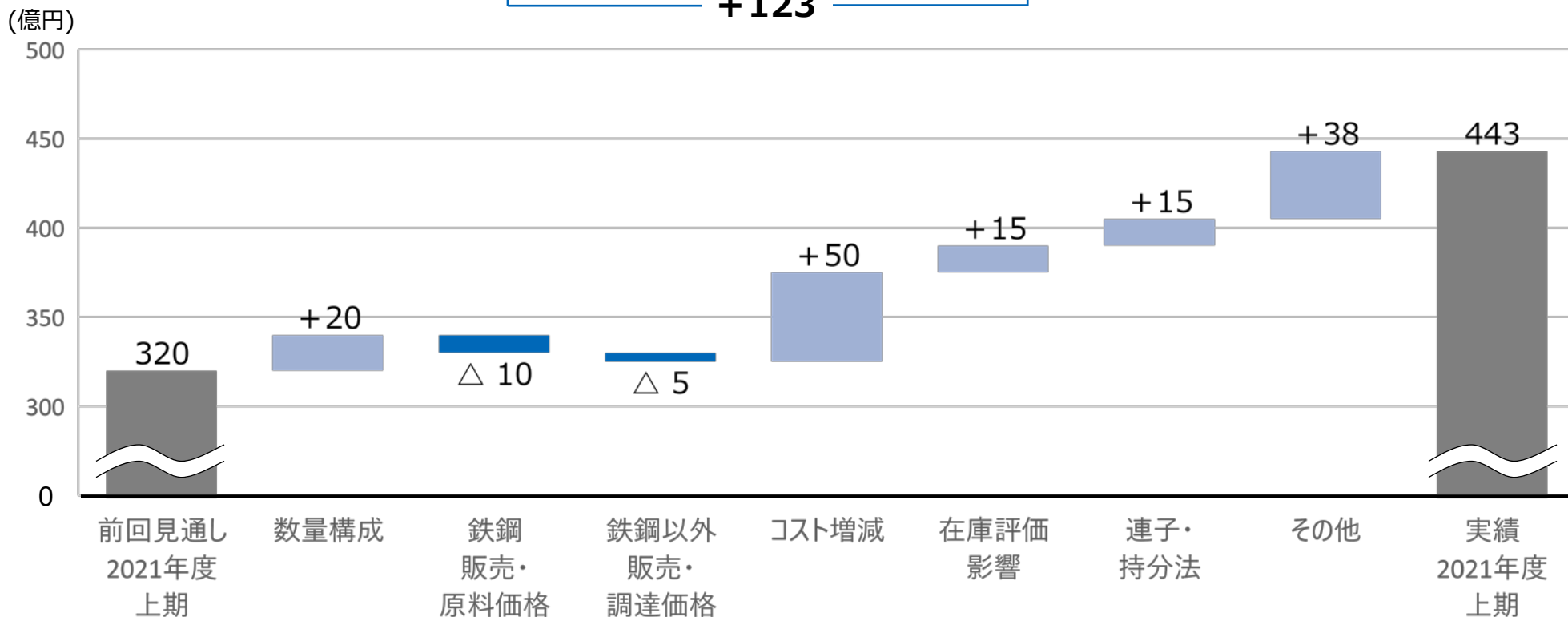
アルミ板	2020年度実績				2021年度見通し				
	1Q	2Q	上期	通期	1Q実績	2Q実績	上期	下期	通期
総平均	△10	△5	△15	△25	5	△5	0	25	25
低価格法	△5	5	0	0	0	0	0	0	0
<b>在庫評価影響</b>	<b>△15</b>	<b>0</b>	<b>△15</b>	<b>△25</b>	<b>5</b>	<b>△5</b>	<b>0</b>	<b>25</b>	<b>25</b>

素形材	2020年度実績				2021年度見通し				
	1Q	2Q	上期	通期	1Q実績	2Q実績	上期	下期	通期
総平均	15	△15	0	10	30	0	30	△5	25
低価格法	△20	15	△5	0	0	0	0	0	0
<b>在庫評価影響</b>	<b>△5</b>	<b>0</b>	<b>△5</b>	<b>10</b>	<b>30</b>	<b>0</b>	<b>30</b>	<b>△5</b>	<b>25</b>

【経常損益】

(単位：億円)

	2021年度見通し (前回)			2021年度見通し (今回)		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期
全社	320	380	700	443	307	750



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む



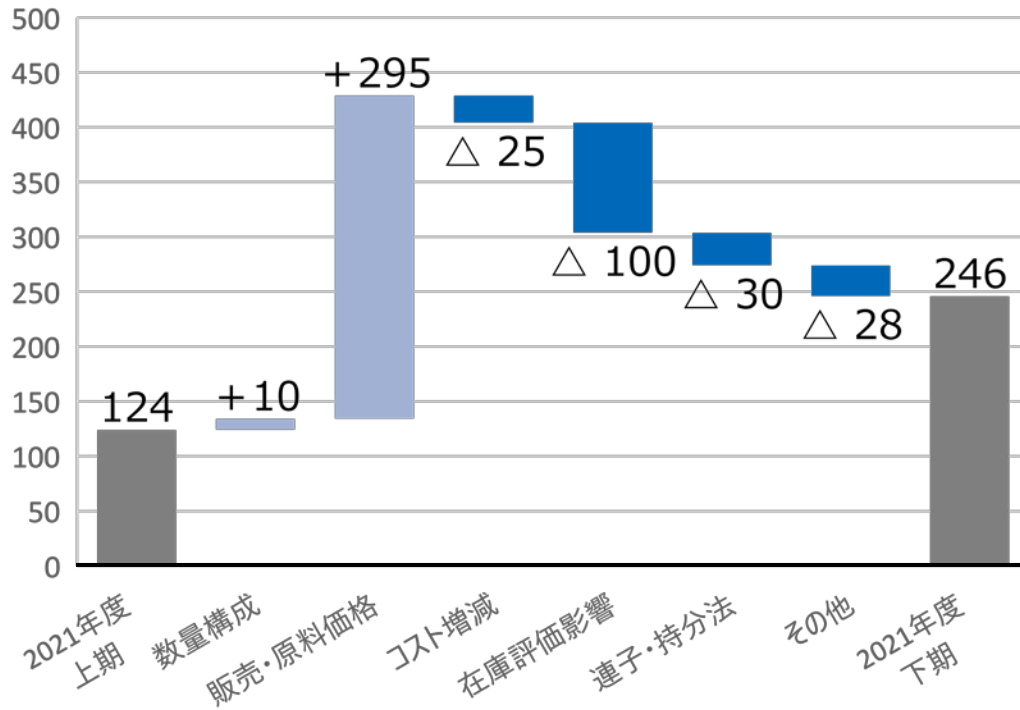
## 【鉄鋼 経常損益】

(単位：億円)

	2021年度見通し		
	上期	下期	通期
鉄鋼	124	246	370

(億円)

+122

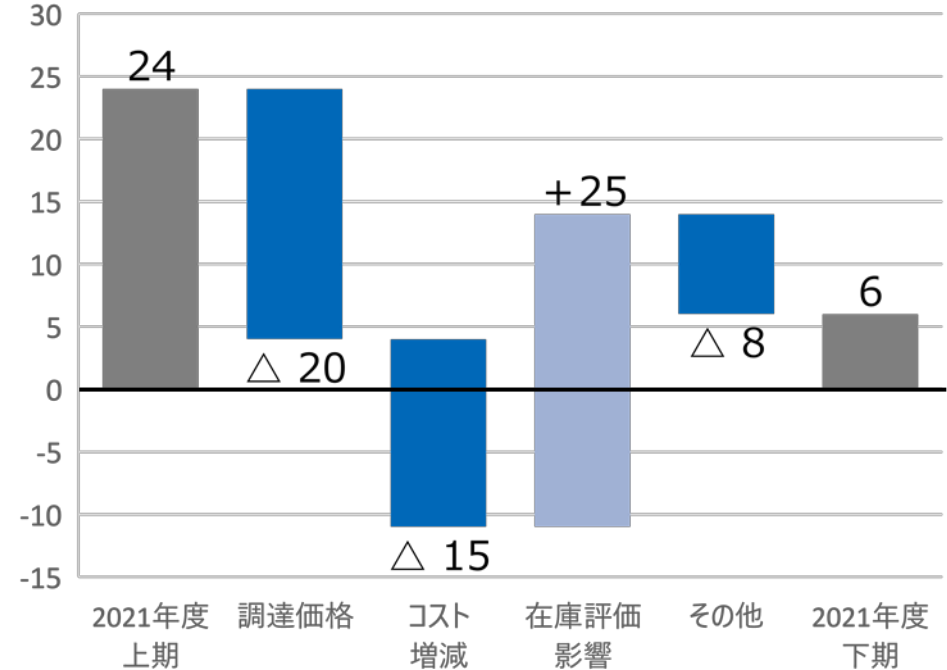


## 【アルミ板 経常損益】

(単位：億円)

	2021年度見通し		
	上期	下期	通期
アルミ板	24	6	30

Δ18



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

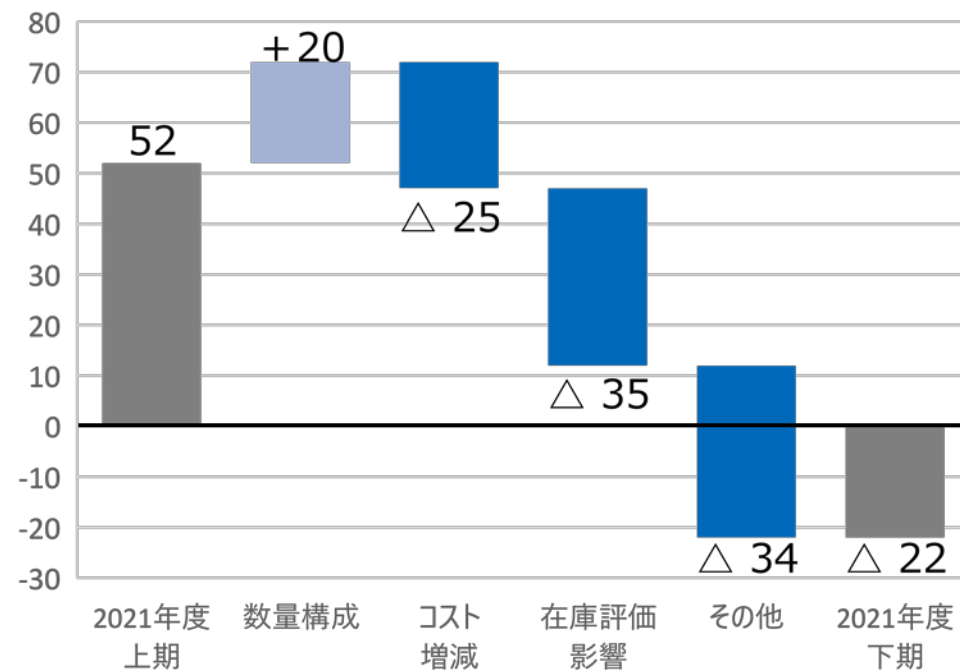
## 【素形材 経常損益】

(単位：億円)

	2021年度見通し		
	上期	下期	通期
素形材	52	△22	30

(億円)

△74

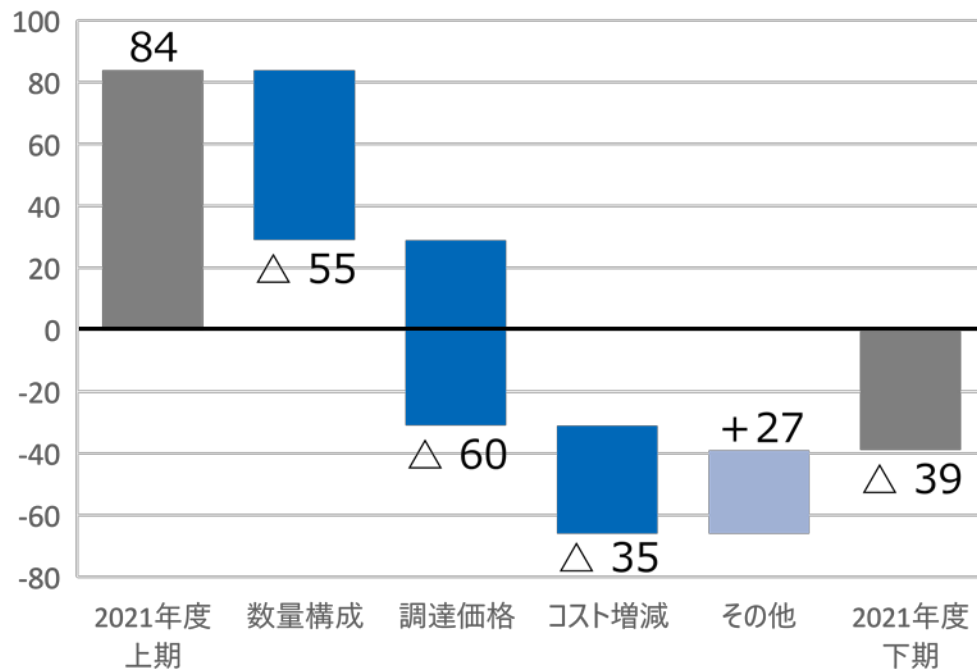


## 【建設機械 経常損益】

(単位：億円)

	2021年度見通し		
	上期	下期	通期
建設機械	84	△39	45

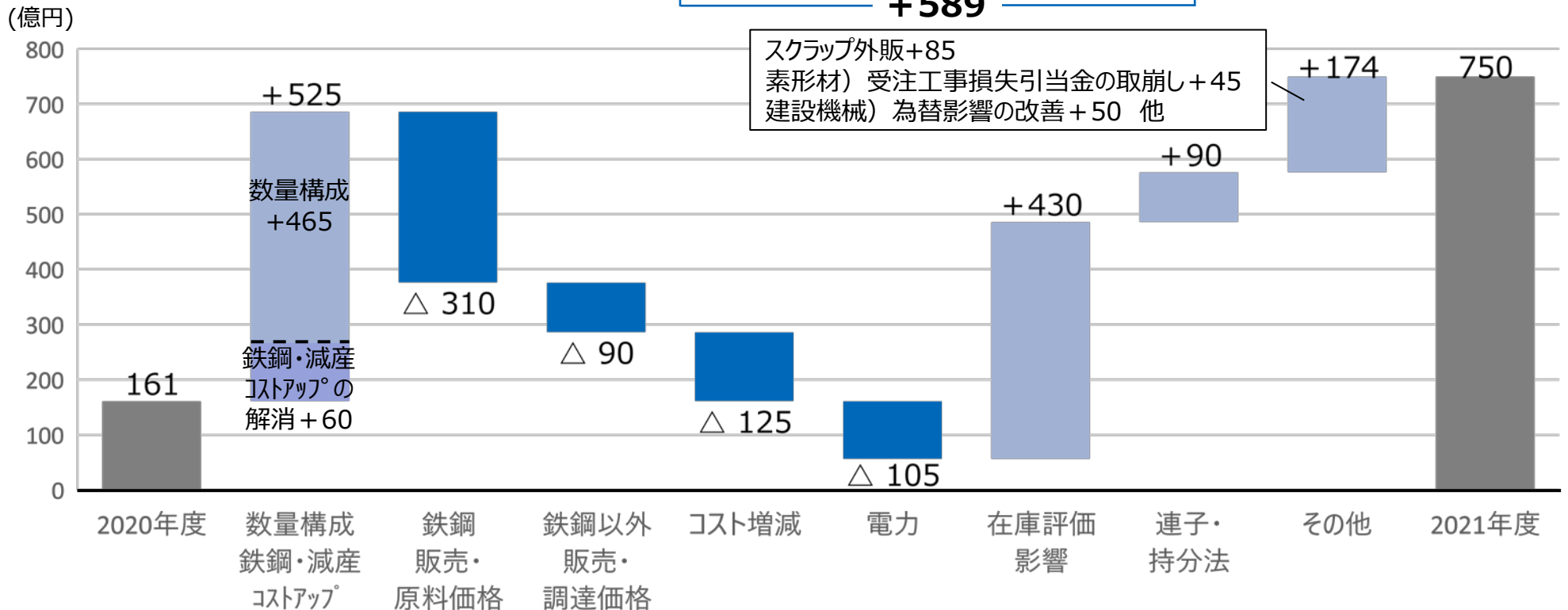
△123



## 【経常損益】

（単位：億円）

	2020年度 実績	2021年度見通し （今回）		
		上期	下期	通期
全社	161	443	307	750



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

(単位：億円)

		2020年度 実績 ①	2021年度 見通し (前回) ②	2021年度 見通し (今回) ③
	営業キャッシュフロー	2,100	1,600	1,750
	投資キャッシュフロー	△819	△1,350	△1,300
	プロジェクトファイナンスを除く フリーキャッシュフロー	1,281	250	450
	プロジェクトファイナンスを含む フリーキャッシュフロー	529	△400	△150
	プロジェクトファイナンスを除く 現預金残高	3,018	1,250	1,300

増減	
③-①	③-②
△350	+150
△481	+50
△831	+200
△679	+250
△1,718	+50

(単位：億円)

		2020年度 実績 ①	2021年度 見通し (前回) ②	2021年度 見通し (今回) ③
	設備投資：計上額	1,850	1,500	1,450
	設備投資：支払額	1,732	1,800	1,750
	減価償却費	1,008	1,050	1,050

増減	
③-①	③-②
△400	△50
+18	△50
+42	-

	2019年度実績	2020年度実績	2021年度 見通し（前回）	2021年度 見通し（今回）
1株当たり当期純損益	△ 187.55円	64.05円	110.27円	133.32円
有利子負債	9,066億円	9,878億円	8,400億円	8,250億円
プロジェクトファイナンスを除く 有利子負債	7,844億円	7,857億円	5,850億円	5,700億円
D/レシオ ※1	※2 1.19倍	※3 1.11倍	0.8倍程度	0.8倍程度
ROS ※4	△ 0.4%	0.9%	3.4%	3.6%
ROA ※5	△ 0.3%	0.6%	2.7%	2.9%
ROE ※6	△ 9.7%	3.4%	5.5%	6.7%
ROIC ※7	0.9%	1.1%	4.0%	4.1%

※1：D/レシオ＝有利子負債（IPPプロジェクトファイナンス含まない）／自己資本

※2：前倒し調達（621億円）含む。前倒し調達除く2019年度D/レシオ：1.10倍

※3：前倒し調達（1,862億円）含む。前倒し調達除く2020年度D/レシオ：0.84倍

※4：売上高経常利益率

※5：経常損益/総資産

※6：親会社株主に帰属する当期純損益/自己資本

※7：税引後事業利益/投下資本

	2020年度実績			2021年度 (前回)	2021年度 (今回)		
	上期	下期	通期	通期	上期	下期	通期
USドル (円/\$)	106.9	105.2	106.1	109.0	109.8	114.0	111.9
中国元 (円/元)	15.3	16.1	15.7	16.0	17.0	17.0	17.0
ユーロ (円/€)	121.3	126.1	123.7	130.0	130.9	130.0	130.5

2021年5月11日公表資料  
 「KOBELCOグループ中期経営計画」

## ① 安定収益基盤の確立

### 5つの重点施策

- ◆ 鋼材事業の収益基盤強化
- ◆ 新規電力プロジェクトの円滑な立上げと安定稼働
- ◆ 素材系事業 戦略投資の収益貢献
- ◆ 不採算事業の再構築
- ◆ 機械系事業 収益安定化と成長市場への対応

➤ 5つの重点施策を着実に推進し、新規電力プロジェクトの収益貢献がフルに寄与する**2023年度にROIC（投下資本収益率）5%以上の収益レベル**を確保し、さらに、**将来の姿としてROIC8%以上を安定的に確保**し持続的に成長する企業グループを目指す。

## ② カーボンニュートラルへの挑戦

	2030年目標	2050年ビジョン
生産プロセスにおけるCO2削減	<b>30～40%※1</b> (2013年度比)	カーボンニュートラルへ挑戦し、 <b>達成を目指す</b>
技術・製品・サービス※2によるCO2排出削減貢献	<b>6,100万t</b> (うちMIDREX®4,500万t以上)	<b>1億t以上</b>

※1 削減目標の対象範囲の大半が製鉄プロセスでの削減。2020年9月公表時から見直し  
 ※2 当社グループ独自の技術・製品・サービスを通じて社会の様々な分野でCO2排出削減に貢献

### 電力事業での取組み

電力事業では、バイオマス技術などを利用した地域全体でのエネルギー利用の効率向上等や、アンモニア等を利用した外部の革新技术の活用検討に果敢に取り組む。

- 2021～2023年度中期経営計画においては、**事業ユニットの管理・評価**に関して、**投下資本利益率（ROIC）**を活用し、**経営資源の効率化と経営基盤の強化**に取り組み中。
- 事業ポートフォリオ管理にあたっては、**収益性（ROIC）**と**市場成長性**に基づき、**各事業ユニットの位置づけを整理**し、その位置づけに応じた施策を検討・実行するとともに、戦略に応じた**経営資源の最適配分**を推進。
- これらを実行するにあたり、2021年4月に経営審議会の補佐機関として、「**事業ポートフォリオ管理委員会**」と「**設備投資・投融資委員会**」を新たに設置。既に両委員会での検討・レビュー結果を定期的に経営審議会へ答申する運用を開始。

## 事業ポートフォリオ管理委員会

### 事業ポートフォリオ戦略の立案

- 資産効率や資本コストの観点から、**全社の事業ポートフォリオ戦略と、戦略に合致する最適資本構成の方針**を立案

### 事業ユニットのモニタリング（四半期毎）

- **事業ユニット単位での業績モニタリングとKPI管理を実施**
- 資本コストを上回る収益レベルに至らないと判断された事業については、今後のあり方を検討の上、経営審議会へ答申

## 設備投資・投融資委員会

### 事前審議

- 重要投資案件について、**事業ポートフォリオ戦略との整合性**を確認
- **投資案件のリスク分析や投資対象の事業自体の評価**を含めた事前審議を実施
- 経営審議会上程の可否を判断し、経営審議会へ委員会意見を答申

### 投資案件フォロー

- 重要投資案件について、投資実行後の**進捗レビュー**を実施
- **計画未達案件については、重点的にモニタリング**を行い、場合によっては今後のあり方を検討
- レビュー結果を経営審議会へ答申

## 事業部門・事業ユニット

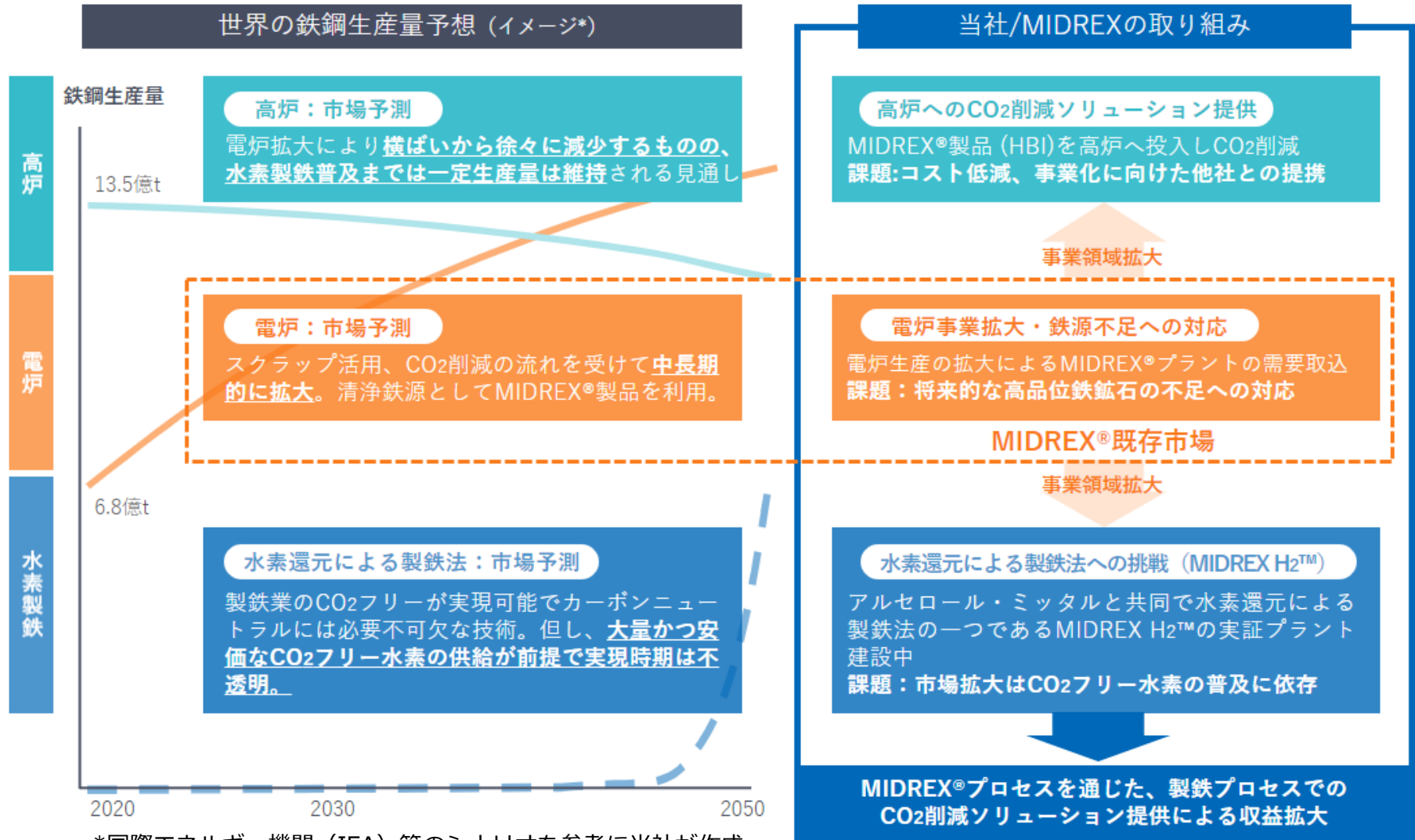
### ROICツリーに基づく事業管理

- 各事業部門・事業ユニットにおいては、**ROICツリーを用いて主要KPIを設定し、取り組み施策のPDCA管理**を実施
- 事業評価指標だけではなく、ROIC ツリーによる**現場改善ツール**としてROICを活用





## ❖ 電炉、高炉、水素還元製鉄法を含めた製鉄プロセスへのMIDREX®を通じたCO2削減ソリューション提供と収益拡大

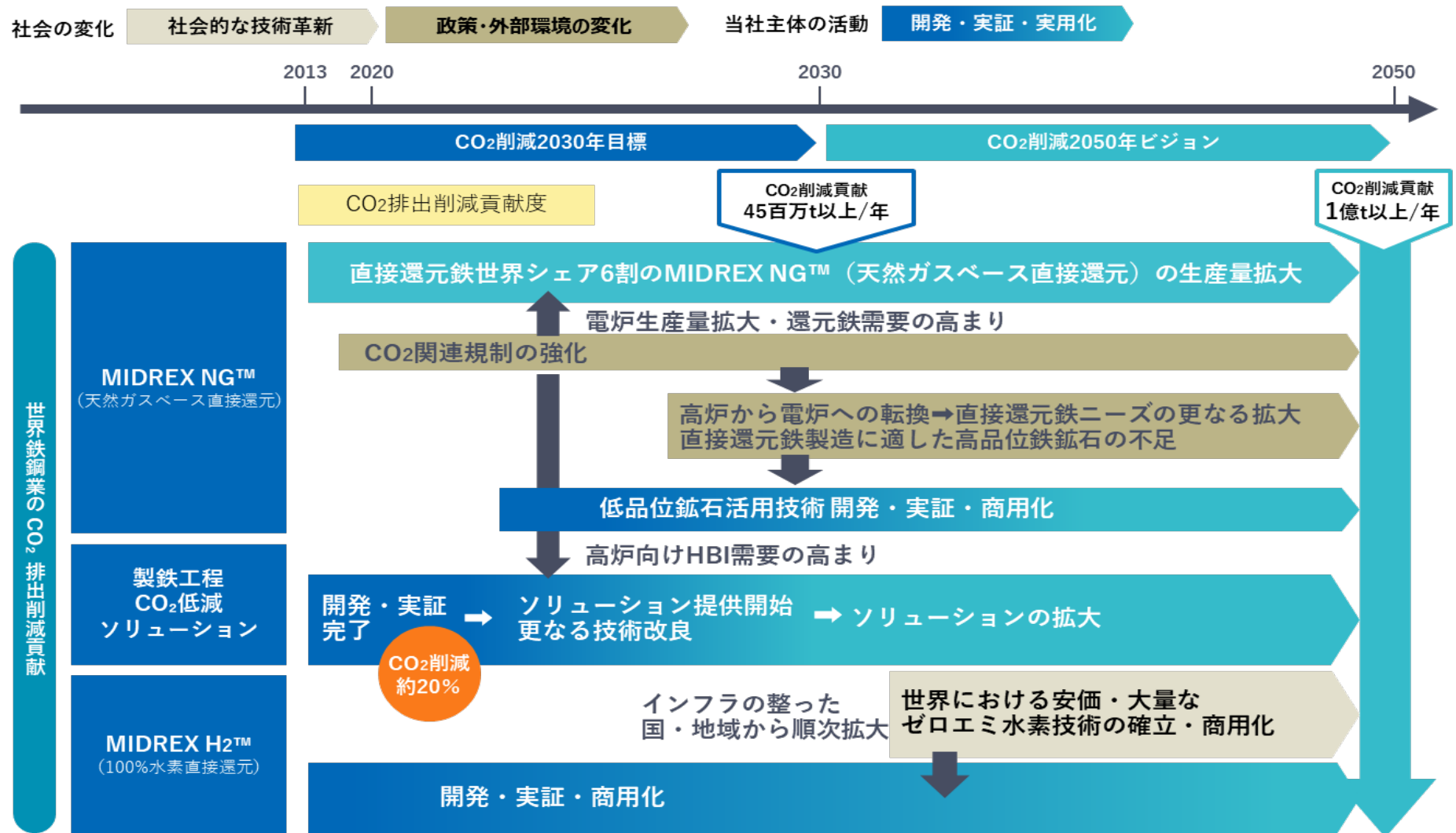


\*国際エネルギー機関 (IEA) 等のシナリオを参考に当社が作成

(出典: 2021年5月11日当社発表 “KOBELCOグループ 中期経営計画 (2021~2023年度) ”)

❖ 各種製鉄プロセスへのMIDREX®を通じたCO2削減ソリューション提供と収益拡大

- 電炉事業拡大・鉄源不足への対応
- 高炉へのCO2削減ソリューション提供
- 水素還元による製鉄法への挑戦 (MIDREX H2™)



(出典：2021年5月11日当社発表“KOBELCOグループ 中期経営計画 (2021~2023年度) ”)

- ◆国連グローバル・コンパクト  
(2021年3月～)



- ◆経団連「2030年 30%チャレンジ」  
(2021年8月～)



- ◆TCFD  
(2020年12月～)



- ◆パートナーシップ構築宣言



- ◆内閣府「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」行動宣言 (2021年8月～)



◆FTSE4Good Index Series  
(2021年6月～)



**FTSE4Good**

ESG投資指数に初選定

◆健康経営優良法人2021  
～ホワイト500～  
(2021年)



2021  
健康経営優良法人  
Health and productivity  
ホワイト500

2年連続の認定

◆CDP  
(2020年12月～)



「気候変動」と「水セキュリティ」で  
A-（Aマイナス）の評価

◆FTSE Blossom Japan Index  
(2021年6月～)



**FTSE Blossom  
Japan**

ESG投資指数に初選定

◆プラチナくるみん  
(2019年～)



<b>KOBELCOが 実現したい未来</b>	「KOBELCOの使命・存在意義」の実行を通じて実現したい社会・未来
	安全・安心で豊かな暮らしの中で、 今と未来の人々が夢や希望を叶えられる世界。
<b>KOBELCOの 使命・存在意義</b>	KOBELCOグループの社会的存在意義であり、果たすべき使命
	個性と技術を活かし合い、 社会課題の解決に挑みつつける。
<b>KOBELCOの 3つの約束</b>	KOBELCOグループの社会に対する約束事であり、グループで共有する価値観
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 信頼される技術、製品、サービスを提供します</li> <li>2. 社員一人ひとりを活かし、グループの和を尊びます</li> <li>3. たゆまぬ変革により、新たな価値を創造します</li> </ol>
<b>KOBELCOの 6つの誓い</b>	「KOBELCOの3つの約束」を果たすため、品質憲章とともに全社員が実践する行動規範
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高い倫理観とプロ意識の徹底</li> <li>2. 優れた製品・サービスの提供による社会への貢献</li> <li>3. 働きやすい職場環境の実現</li> <li>4. 地域社会との共生</li> <li>5. 環境への貢献</li> <li>6. ステークホルダーの尊重</li> </ol>

品質憲章

## 将来見通しに関する注意事項

- ◆ 本日のプレゼンテーションの中には、弊社の予想、確信、期待、意向および戦略など、将来の予測に関する内容が含まれています。これらは、弊社が現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化による変動可能性など様々な要因によって、実際に生じる結果が予測内容とは実質的に異なってしまふ可能性があります。弊社は、将来予測に関するいかなる内容についても、改訂する義務を負うものではありません。
  
- ◆ 上記の不確実性および変動の要因としては、以下に挙げる内容を含んでいます。また、要因はこれらに限定されるわけではありません。
  - 主要市場における経済情勢および需要・市況の変動
  - 主要市場における政治情勢や貿易規制等各種規制
  - 為替相場の変動
  - 原材料のアベイラビリティや市況
  - 競争企業の製品・サービス、価格政策、アライアンス、M&Aなどの事業展開
  - 弊社の提携関係に関する提携パートナーの戦略変化